

事故時の放射性物質の拡散影響評価を実施します

- ◆当社では、福島第一原子力発電所事故の当事者としての反省を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所の安全性を向上するため、継続的に改善を進めております。
- ◆事故時に原子炉格納容器の破損を避けるため放射性物質を低減した上で外部に排気する緊急措置（「格納容器ベント」）関連では、運用面の改善等に基づくベント時間の延伸、排気中の放射性物質を取り除くフィルタベント設備へのよう素フィルタ設置他の対策によるベント回避等の改善を進めてまいりました。
- ◆安全性向上に向けた取組の一環として、当社では、万一、重大事故が発生した際に放射性物質がどのように大気中に拡がるかについて、当社所有の分析システムを用いた影響評価^(※)を実施することといたしました。「発電所で進めてきた安全対策の有効性確認」や「避難を伴う事故時に住民の皆さまの被ばく線量をできる限り少なくするため当社として出来ることなどの検討」に活かしてまいります。評価結果はまとまり次第、公表いたします。

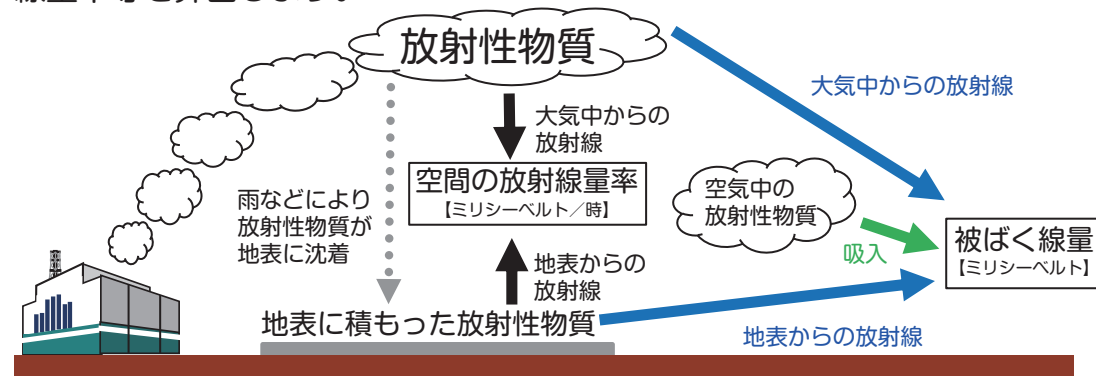
※新潟県が実施する拡散影響評価は国の分析システム（SPEEDI）を使用

Q. 何を評価するの？

A. 発電所で重大な事故が発生し、排気などを通じて放射性物質が放出された際、どのように拡がり、周辺に影響を及ぼすかを試算します。

<試算方法>

- ・当社所有の原子力発電所周辺線量予測評価システム（DIANA）に、放射性物質の放出量や風向き等の気象データを入力し、被ばく線量や空間の放射線量率等を算出します。



拡散影響評価で算出する放射線量などのイメージ

住民の皆さまの避難や屋内退避などの効果も考慮した実効的な評価を実施します。

Q. 評価結果は何に使うの？

A. 福島原子力事故の教訓を踏まえて進めてきた安全対策の効果を確認し、さらなる改善に活かします。また、住民の皆さまが避難する場合に当社として何が出来るかの検討に活かしてまいります。

<安全対策の有効性確認>

- ・原子炉格納容器に「放射性物質を閉じ込めておく」対策にどれくらいの効果があるのか、フィルタベント設備の「放射性物質を減らす効果」はどれくらいなのか、確認します。

<住民の皆さまへの協力検討>

- ・住民の皆さまの避難を伴う重大事故が発生した際に、被ばく線量をできる限り少なくするため、当社として協力出来る対応策などの検討に活かします。